

法律学専攻

Law

東京板橋キャンパス

博士課程 前期課程

博士課程 後期課程



[Webサイト]
法学研究科 法律学専攻
https://www.daito.ac.jp/education/graduate_school/department/law/outline.html#anc01

学びの特長

学ぶ者のニーズを考えた幅広いメニューを提供し、専門職をはじめ高度な職業人の育成を目指します。

★法律学専攻 短縮修了コースの募集を開始しました。
詳しくは法学研究科ウェブサイトをご覧ください。



[Webサイト]
短縮修了コース
https://www.daito.ac.jp/education/graduate_school/department/law/shortened_course/

学べる領域の図

公 法 学
民事法学
刑事法学
社会法学
国際法学

基礎法学



多様なカリキュラムで、 社会で活躍する研究者・職業人を輩出

前期課程は、専攻科目において公法学、民事法学、刑事法学、社会法学、国際法学、基礎法学に分かれ（他に関係講義科目があります）、学ぶ者のニーズを考えた幅広く多様なカリキュラムを提供しています。入試の方法も、語学を必要とする一般研究者向け方式から、語学を必要としない（他に必要とされる要件があります）方式まで多様です。卒業生の進路としては、研究者の他に税理士などの資格を必要とする職業に就く者も多くいます。現在も、実務に密着した授業がされている科目もありますが、今後はさらにこの点が重視されてくるでしょう。

後期課程は、公法研究指導、民法研究指導、刑事法研究指導、社会法研究指導、国際法研究指導・基礎法学研究指導をはじめとする各種法部門の特殊研究が開設されて、高度で多様な研究を必要とする社会の需要にえています。留学生による研究も盛んに行われています。学位取得についても、適切な指導の下に、社会的に有益でオリジナリティのある研究論文が提出されれば、積極的に授与する方向で考えられています。既に学位を取得して、大学における研究者としてまたは高度職業専門人のリーダーとして活躍している者も少なくありません。



法律学専攻主任
河野 良継教授

学位取得論文

- 美容医療契約における医師の責任法理について
ー美容医療判例からみる医師の説明義務と被害者の救済の在り方を中心にー
- 医療過誤訴訟における「相当程度の可能性」法理と中国の「原因力規則」（寄与度減責法理）の比較法に関する研究
- 定期金賠償の可否について 一逸失利益の賠償を中心にー
- 民間型ADRで行われた調停の執行力 ー日本とモンゴルでの議論を参考にして
- 裁判員制度が量刑傾向に与えた影響について
- 中国の「工会」・「工会法」の形成・展開と課題
ー「代表性」をめぐる論点を中心にー
- 素因競合事例における割合的解決とその法律構成の検討
- 事情変更の原則の効果の検討 ー日本法から中国法への示唆ー
- 親権の法的性質の変化に対する考察
～子どもの権利・福祉の観点による事例分析を通して～
- 源泉徴収制度の検討 ～法律関係における問題点を中心に～

Student Voice



法律学専攻
博士課程前期課程2年
都丸 藍さん
大東文化大学 法学部法律学科卒

先生方の贅沢な少人数指導のおかげで学びが深まる日々

学部での卒業論文だけで終わらせるには物足りなく、大学院で研究を行うことでより発展した知識を得たいと考え、大学院に進学しました。現在は、日本における安楽死法の制定可能性について研究しています。安楽死と関係する自殺幇助罪や嘱託殺人罪といった刑法202条の歴史的変遷や、安楽死法のある国がどのような経緯で制定に至ったのか、日本の議論状況と比較しながら研究を深めているところです。世界各国の安楽死法制定の経緯を知ることで、日本で壁となっている部分が整理できていく点に研究の意義を感じ、デリケートな分野の学びを深めることでより慎重で多面的な思考を持てるようにもなりました。これもプロフェッショナルである先生方の丁寧で細やかな少人数指導のおかげです。振り返れば学部での勉強は、良い意味で基礎を学べる場でした。大学院はより発展した研究の中で学びを与えてもらえる応用の場所であると感じています。学部で学んだ内容に興味を持ち、より深く知識を掘り下げたいと考える人には、大学院という場所はとても魅力的な環境だと思います。

法律学専攻 専任教員

博前 博士課程 前期課程の研究指導 博後 博士課程 後期課程の研究指導
※2027年度における研究指導の可否については、「2027年度大学院入学試験要項」を確認してください。

木原 正雄 博士（法学）／教授 行政法	博前 博後	現代における行政の組織・作用・手続とそれにより権利・利益を害された者の救済について研究します。	滝原 啓允 博士（法学）／准教授 労働法	博前	労働契約論について研究しています。とりわけハラスメント問題について、付随義務論等から、その最適解を探っています。
河野 良継 博士（法学）／教授 法社会学、比較法文化論	博前	近現代社会のなりたちや構造からみた法の在り方を研究中です。	萩原 基裕 博士（法学）／教授 民法（財産法）	博前 博後	契約不適合責任と追完請求権について、その本質や射程を研究しています。
藤井 康博 博士（法学）／教授 憲法、環境法	博前 博後	個人の尊厳・権利、国家論、環境法の原則について、ドイツとも比較しながら考えています。	堀川 信一 博士（法学）／教授 民法	博前 博後	契約上のトラブルについて特にどんな場合に契約が有効に成立するかドイツの議論を参考に検討しています。
松原 孝明 修士（法学）／教授 民法	博前 博後	交通事故や医療事故が発生した際の損害賠償責任についての研究を行っています。	森 稔樹 修士（法学）／教授 租税法、財政法、行政法	博前 博後	我々国民が納める税（所得税法、消費税法など）の構造や問題点などを、実際の例をみながら研究します。
山口 志保 修士（法学）／教授 民法（契約法、消費者法）	博前 博後	契約交渉中途挫折に関して、どのような当事者保護がなされているか、その際の理論について比較検討します。	山本 裕子 博士（学術）／教授 経済法	博前 博後	自由競争経済秩序の下で、事業者・消費者双方のメリットを最大化する法制度はどのようなものか、考えます。
八百 章嘉 修士（法学）／教授 刑事訴訟法	博前	刑事手続における検察官の役割や公訴提起に係る諸問題、また刑事司法制度に対する民主的統制の在り方を中心に研究しています。	山本 紘之 博士（法学）／教授 刑法、医事法	博前 博後	処罰に値する過ち（過失）とは何か、処罰すべきはどのような場合なのかを研究しています。
吉永 圭 学士（法学）／教授 法哲学、法思想史	博前 博後	「正義」という法学の根本的な概念を、具体的な問題を常に視野にいれながら考えています。	王 学士 博士（法学）／准教授 商法（特に会社法、保険法）	博前	株式会社の機関設計と、告知義務制度や保険金の不正請求に対する法的規制等といった、保険契約にかかわる法制について研究を行っています。
奥田 菜津 博士（法学）／准教授 刑法	博前	何かを「しない」ことによって犯罪を実現する、不作為犯という犯罪形態について研究しています。			

Topics

「短縮修了コース」を導入 最短1年で大学院修了が可能に

法律学専攻は、大東文化大学法学部法律学科4年生を対象として「短縮修了コース」を導入いたしました。これは、4年次に科目等履修生として大学院科目を先取り履修することで、1年間大学院に在学したものとみなすコースです。4年次に修得した大学院科目の単位は、大学院正規入学後、15単位を上限として修了要件単位に振り替えることができます。そして、修士論文か調査研究報告書を提出すれば、最短1年で大学院を修了することができます。1年間の学費が実質無料になるのみならず、大学院での高度でより実践的な学びは、将来のキャリア形成に大いに役立ちます。詳細はページ上のwebページをご確認ください。

バランスよく配置された演習・講義 複数の教員からの指導で論文作成をサポート

法律学専攻では、公務員試験などの各種試験や民間就職のために必要な、高度な専門知識を修得できるように、演習科目と講義科目がバランスよく配置されており、科目を選択することができます。税理士試験の免除申請が可能な科目（税法）も設置しています。また、博士前期課程科目「総合演習」では、各々のニーズにあわせて、毎年新しいテーマで開講しており、2名の担当教員がそれぞれの専門分野の視点から指導を行っています。更に、毎年、研究発表会を開催しており、各自の研究内容やスタイルについて、複数の教員からアドバイスを受けることで、より客観的な視点で研究することを可能にしています。このような授業や発表会を通じて、修士論文・博士論文を完成させることをサポートしていきます。

政治学専攻

Political Science

東京板橋キャンパス

博士課程 前期課程

博士課程 後期課程



【Webサイト】
公共政策学専修コース
https://www.daito.ac.jp/education/graduate_school/department/law/public_policy_course/

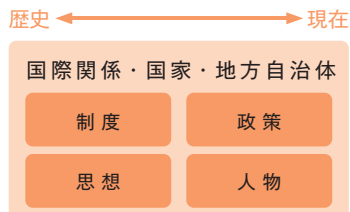
学びの特長

政治学は守備範囲の広い学問ですが、各分野の専門家を揃え、個別に基礎から指導する体制を用意しています。



【Webサイト】
法学研究科 政治学専攻
https://www.daito.ac.jp/education/graduate_school/department/law/outline.html#anc02

学べる領域の図



日本と世界の政治情勢に対応した、最先端の政治学を体系的に学ぶ

政治学は、思想、政治制度、政治過程、政策など、様々な対象を取り上げるだけではありません。「歴史」から「現在」までという時間の観点からも、「地域」から「国際」までという領域の観点からも、政治学は守備範囲の広い学問でもあります。また、刻々と変わりゆく国内外の情勢や政策課題にも関心を持ち続ける必要があります。政治学専攻では、思想史や現代政治分析などの各分野の最先端を学ぶことができる講義科目と、学生自身が遂行する研究や学位論文の執筆に必要とされる手法などを基礎から学ぶ演習科目を組み合わせることにより、自身の関心分野に応じて政治学を体系的に学ぶことができます。政治学の幅広い分野の専門家が連携して教育に取り組むことにより、研究者はもちろんのこと、行政機関や民間企業に勤める高度職業人やNGOなどで活躍する専門家など、多彩な人材を養成します。

政策立案のスキルアップをめざす現職公務員、公務員志望の学部卒業生、公共政策に関心をよせる企業・各種団体等の職員などを念頭に、経済学専攻と共同で「公共政策専修コース」が開設されています。また、政治学専攻が設置された当初から、多くの外国人留学生を受け入れてきました。その実績に基づいて、複数の教員が連携して外国人留学生の研究指導も十分に行うことができます。国内外の情勢の変化が激しく、今後の世界と日本の見通しが立てにくい今、政治学専攻における学びと研究が役に立つでしょう。

学位取得論文

- 日本の対中外交の逆説 1933-1937
ー「交渉なき外交」の帰結ー（博士）
- 経済調査庁：忘れられたGHQ占領下の経済統制機構の軌跡（博士）
- 韓国・第六共和国体制における政策展開の分析：初期民主化段階における改革の強み（博士）
- 日本と中国の相互理解における国際姉妹都市交流の役割と可能性について（修士）
- トルドー政権初期における外交政策の展開ー中国承認と第三の選択の事例研究ー（修士）
- 日本外務省の「対中国アプローチ」に関する研究 1933-1937（修士）
- 道府県と政令指定都市との役割分担に関する一考察ー都市部における少子・高齢社会を前提としてー（修士）
- 教育委員会制度改革についての一考察（修士）
- 戦後アジア情勢と日本の「架け橋外交」ー東西・南北対立を超えてー（修士）
- 戦後日本の高齢者福祉政策の政策過程（修士）

Student Voice



政治学専攻
博士課程後期課程修了
金子 貴純さん
早稲田大学 法学部卒

物事の因果関係を考察する論理的思考力が身につきました

社会人として勤務する傍ら、もともと歴史が好きだったこともあり、自分で歴史を書いてみたいと思うようになりました。歴史を書くにあたっては一定の技術と作法が必要とされ、それらを正確に習得するには大学院に進学することが最適であると考えて進学を決めました。そもそも私は研究をすること自体が初めてで、正直すべてが不安でしたが、大東文化大学大学院の恵まれた研究環境が学びを後押ししてくれました。というのも大学院は少人数で構成されているため、院生室では各自の机が用意されており、IT機器も完備されています。また先生方との距離が近く、講義中はもちろん、それ以外の場でも先生と気軽に対話ができました。そうした日々を通じて、物事の因果関係を考察するなどの論理的思考力が身につき、文章を書く力が向上したように思います。文章を書くのは簡単なようで極めて難しいもので、とくに社会人になったあと、文章力は必須のスキルといえます。大東文化大学大学院で博士号を取得した後、日本学術振興会特別研究員（PD）の内定を得るとともに、目標としていた大学教員の職に就くことができました。

政治学専攻 専任教員

博前 博士課程 前期課程の研究指導 博後 博士課程 後期課程の研究指導
※2027年度における研究指導の可否については、「2027年度大学院入学試験要項」を確認してください。

井上 浩子 PhD／教授 国際関係学、東南アジア研究、東ティモール研究	博前 博後	東ティモールという国を中心に、小国や市民社会から見た国際関係を研究しています。	川名 晋史 博士（国際政治学）／教授 米国の海外基地政策	博前	米国の海外軍事基地をめぐる政治に関心があります。沖縄や日本本土のみならず、世界で起きている基地問題を研究しています。
小林 大祐 博士（政治学）／教授 行政学、比較都市政策	博前 博後	行政のしくみが政策にどのような影響を与えているのかについて、ドイツと日本とを比較しながら研究しています。	坂部 真理 博士（法学）／教授 現代アメリカ政治、比較福祉政治、教育政策	博前 博後	アメリカにおける大統領選挙や福祉国家のあり方の変化について研究しています。
竹内 真雄 博士（総合政策）／教授 地方自治論、行政学	博前	地方自治論の研究を行っています。特に、制度変更や組織再編が実際にはどんな影響をもたらしたかについての分析を専門としています。	武田 知己 博士（政治学）／教授 日本政治外交史、対外政策決定論	博前 博後	近現代の日本の政治・外交の歴史、特に昭和史を、未発見の史料を発掘しながら研究しています。
中根 一貴 博士（法学）／教授 ヨーロッパ政治史、東中欧地域研究	博前 博後	民主主義や政党政治、ナショナリズムをテーマにして、ヨーロッパの中心に位置するチェコの政治史を主に研究しています。	萩原 稔 博士（政治学）／教授 近代日本政治思想史	博前 博後	近現代の日本の政治に関わった人々が、日本や世界の「あるべき姿」をどのように思い描いたのかを研究します。
岡田 拓也 博士（法学）／准教授 西洋政治思想史	博前	17世紀イギリスで生まれた、今日の民主主義や立憲主義につながる思想について研究しています。	若林 悠 博士（学術）／准教授 政治過程論、日本の官僚制	博前	政官関係、官民関係など行政官僚制の活動を中心に日本の政治過程を研究しています。

Topics

少人数教育と丁寧な研究指導

政治学専攻では、研究指導はもとより、コースワークでも徹底した少人数教育を行っています。それにより学位論文作成に必要な知識やスキルを身につけることができます。また、自らの指導教員だけでなく、自らの専門に近い教員も積極的に研究上のアドバイスをしています。特に、院生発表会では作成途中の学位論文について報告してもらい、発表会に参加した教員が報告にコメントします。少人数教育と指導教員による丁寧な指導だけでなく、専攻に所属する教員との距離の近さが充実した研究生活を可能にします。

公共政策学専修コースを設置

大東文化大学大学院では、経済学研究科経済学専攻と法学研究科政治学専攻とが連携して、「公共政策学専修コース」を開設しています。このコースでは、経済学の科目と政治学の科目とを併行して修得しつつ、自らの関心分野に応じて勉学を深めることができます。また、リサーチペーパーの作成による修了を認めるなど、実践的な研究を行うことができます。公務員を目指す卒業生はもとより、政策立案や公共政策に関心のある公務員の方、企業やNGO・公益社団法人などの各種団体等の職員の方が勉学・研究することを念頭においたコースになります。政治学専攻では、坂部真理教授（政治学演習）、竹内真雄教授（現代地方政治演習）、小林大祐教授（行政学演習）、若林悠准教授（政治過程論演習）などが公共政策学専修コースを担当しています。